

第1回 三豊市就学前教育・保育検討委員会 会議録

日 時	令和元年5月30日（木）午後2時00分～午後4時00分
場 所	三豊市危機管理センター301・302会議室
出席者	<p>【三豊市就学前教育・保育検討委員会委員】13名 松井 剛太、常田 美穂、佐久良 恵都子、則久 郁代、島田 雅子、石川 眞弓、友枝 洋規、田井 清、藤井 香織、吉田 麻有実、平尾 太一、平尾 俊文、田尾 和人（敬称略・順不同）</p> <p>【事務局関係職員】9名 健康福祉部 滝口部長 保育幼稚園課 藤田課長、多田GL、松岡、富田、大西 教育委員会事務局 岩本部長 教育総務課 豊島課長 学校教育課 山下課長</p>
欠席者	<p>【三豊市就学前教育・保育検討委員会委員】2名 安藤 紳一、三木 緑</p>
傍聴者	0名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員の委嘱及び任命 2. あいさつ 3. 委員及び事務局職員自己紹介 4. 委員長・副委員長選任 5. 就学前教育・保育検討委員会の趣旨説明について 6. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 現状報告 (2) 既存計画等の概要 (3) その他 7. その他
会 議 概 要	
開 会	
1. 委員の委嘱及び任命	
	＜市長より委嘱状・任命書交付＞
2. あいさつ	
山下市長	<p>＜あいさつ＞</p> <p>委員の皆様におかれましては、このたび快く委員を引き受けていただき、誠にありがとうございます。三豊市は昨年度、今後10年間の方向性を示した第2次総合計画を策定し、まちの将来像を「One Mitoyo～心つながる豊かさ実感都市～」と定めたところです。第2次総合計画においても、「就学前教育・保育における教育内容の充実」や「幼保連携の強化」などを目標に掲げております。</p> <p>国のほうでも、子どもたちに特化して投資していこうという方針のもと、幼児教</p>

事務局	<p>育・保育の無償化を規定した「子ども・子育て支援法の一部を改正する法律」が国会で可決されました。子どもたちは、三豊の将来そのものであり、中でも就学前教育・保育は今後ますます重要となると考えております。</p> <p>近年、就学前の子どもを取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、昨今は子どもたちが被害者となる悲惨な事件も発生しています。いかに子どもたちを守り、育てていくかは、我々が想像している以上に難しい課題となっており、社会の流れもさらに速くなってきているのを実感しております。</p> <p>現在の子どもたちは、我々が作った社会を生きており、子どもにとって選択の余地はありません。未来そのものである子どもたちが健全に育つ環境を作ることが、我々大人の責務であります。</p> <p>本委員会におきましては、学識経験者を始め、本市の子どもたちに関わる、様々な立場の方に委員になっていただいております。三豊市の未来を担う子どもたちにとって、どういった教育・保育の体制が望ましいのか、忌憚のないご意見をいただき、熱心にご審議いただきたいと考えております。三豊市といたしましても、全力で取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>最後になりますが、本委員会への委員就任に対してお礼申し上げますとともに、今後のご協力をお願い申し上げます、私の挨拶といたします。何卒よろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは会議に移ります。最初に出席委員数の報告をさせていただきます。本日の会議は、委員 15 名に対して 13 名のご出席をいただいております。三豊市就学前教育・保育検討委員会設置条例第 6 条第 2 項の規定により、会議が成立することをご報告させていただきます。</p>
3. 委員及び事務局職員自己紹介	
<p style="text-align: center;">＜委員・事務局職員自己紹介＞</p>	
4. 委員長・副委員長の選任	
委員長	<p>＜三豊市就学前教育・保育検討委員会設置条例第 5 条の規定により、委員の互選により、委員長及び副委員長を選任＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長 香川大学教育学部准教授 松井 剛太 委員 ・副委員長 NPO 法人わははネット 常田 美穂 委員 <p>＜委員長あいさつ＞</p> <p>委員長を拝命しました松井です。今週は会議が続いておりまして、子どもたちの未来をずっと考える一週間になっております。こういった会議においては、最初に課題が出てきて、その課題をどう解決していくのかということ、暗い話題から始まることも多いと思いますが、せっかく委員の皆様がお集まりいただき、三豊市の今後の方向性を議論するというので、明るいビジョンを出していけたらと考えております。委員の皆様のご忌憚のないご意見を申し上げます。</p>

5. 就学前教育・保育検討委員会の趣旨説明等について	
事務局	次に、議事に入る前にまず、事務局から本委員会の趣旨等について、説明させていただきます。
事務局	<p><三豊市就学前教育・保育検討委員会の趣旨説明></p> <p>◆資料①【三豊市就学前教育・保育検討委員会について】により、以下を説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園入園者の減少、保育施設入所者の増加に伴う待機児童の発生 ・民間保育施設の新規開設 ・就学前教育・保育に関する報告書、三豊市保育所運営計画と現状とのかい離 ・子ども・子育て支援新制度の開始 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針の改定 ・第2次総合計画、サポートプランの策定（子ども・子育て会議との関係） ・根拠条例 ・今後のスケジュール案
6. 議事	
(1) 現状報告	
事務局	では、早速議事に入らせていただきます。議事につきましては、三豊市就学前教育・保育検討委員会設置条例第5条の規定により、「委員長が会務を総理すること」とされていますので、ここからの進行は、松井委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
委員長	議事に入らせていただきます。まず「現状報告」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p><三豊市就学前教育・保育の現状について説明></p> <p>◆資料②【三豊市就学前教育・保育の現状について】により、以下を説明。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 就学前教育・保育施設の現状について <ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園、公立保育所、私立保育所、私立小規模保育施設の現状 ・施設の老朽化について 2. 出生数、幼稚園、保育施設の利用者数の推移 <ul style="list-style-type: none"> ・出生数の減少、就学前児童数の減少 ・幼稚園、保育施設の入園（所）者数の推移 ・年齢別の幼稚園、保育施設入園（所）率の推移 ・待機児童の現状
委員長	ただいま事務局から、三豊市の就学前教育・保育の現状に関する説明がありましたが、その他全般的なことでもかまいませんので、ご質問、ご意見等はございませんか？

A 委員	平成 29 年度に幼稚園と保育所の利用率が逆転している。市としては、要因をどのように分析しているのか？
事務局	<p>様々な要因があると思われる。女性の就労率の増加や 1 億総活躍社会の実現、育児休業制度の確立など、国の制度面の変化もある。人口減少社会の中で、家庭保育をしていた母親たちの就労を、社会が求めている面もある。</p> <p>近年は結婚後も女性が職場で活躍しているケースが多く、子どもを産んだ後も育児を取り、職場復帰することがスタンダードになってきている。</p> <p>もともと幼稚園は家庭保育の子どもを対象としており、制度的なものに限界が来ている。保護者の選択として、保育所を選ぶ保護者が多くなっており、平成 27 年度の子ども・子育て支援新制度の開始以降、その傾向が顕著に表れている。</p>
B 委員	子どもの数は減っているが、保育需要が上昇しており、4 月入所でも第 2 希望、第 3 希望に回ってもらう子どもがいるとの説明があったが、保護者からの不満等はないのか？
事務局	平成 27 年度頃までは、ほぼ第 1 希望の保育所へ入所できていたが、その後、全員が第 1 希望に入ることが難しくなり、保護者の不満が毎年多くある。特にここ近年は、3 歳児以上の継続入所が難しくなっている。定員数、保育士数などにより、受け入れできる子どもの数は限りがあり、3 歳児や 4 歳児になって他の保育所へ回らなければいけないという場合に、大きな不満がある。入所判定方法等の説明をして、何とかご理解をいただいている状況である。
B 委員	認定こども園化が進んでいると思う。市としては今後どのような方針か？
事務局	<p>現在決まっているのは、山本地区の新設統合幼稚園が幼稚園型認定こども園として整備する点、民設民営で幼保連携型認定こども園が新しくできる点の 2 点である。それ以外は決まっていない。</p> <p>認定こども園の是非についても、この検討委員会で議論したい。認定こども園はどのようなものかという説明も必要であり、子どもたちにとってどういう環境が良いのか検討していきたい。</p>
(2) 既存計画の概要	
委員長	では次の議事に移ります。「既存計画の概要」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p><既存計画の概要について説明></p> <p>◆資料③【既存計画の概要】により、以下を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三豊市就学前教育・保育に関する報告書

	<ul style="list-style-type: none"> ・三豊市保育所運営計画 ・三豊市就学前教育・保育施設適正配置計画（案） <p>上記3つの計画等の概要を説明。なお、2回目の委員回以降に、現状とのかい離原因等について、具体的に検証を行う。</p>
委員長	ただいま事務局より説明がありましたが、ご質問、ご意見等はございませんか？
C 委員	山本地区の認定こども園については、形態は決まっているのか？
事務局	基本は4幼稚園の統合なので、統合幼稚園となる。そこに保育所としての機能を持たせる。3歳児～5歳児の1号認定、2号認定全ての子どもが利用できる施設となり、幼稚園型の認定こども園となる。山本保育所は0歳児～2歳児対象の保育所とする。認定こども園は旧大野小学校へ建設しており、完成後、隣の大野幼稚園を増築、大規模改修して保育所を整備する。大野幼稚園が空き施設になってからの保育所整備となるので、ほぼ1年遅れとなる。
C 委員	保護者が保育所と幼稚園を選択する判断基準の一つに、保育時間の問題がある。保育所は18時半までで、幼稚園の預かりは18時までである。認定こども園として運営していく上では、保育所と同じ18時半までの保育が必要だと感じる。幼稚園の子どもが減っているが、保育時間の面が大きく、18時半まで保育できる幼稚園であれば、保護者の選択肢にも入ってくると思う。
事務局	<p>認定こども園は2号認定も利用できる施設で、児童福祉法の適用を受ける。保育標準時間は11時間と定められており、三豊市の保育施設は7時半～18時半の開所時間となっている。幼稚園型認定こども園として、認定こども園の認定を県から受けるが、幼稚園であっても11時間の保育を提供する必要がある。</p> <p>現状のまま、幼稚園の預かり保育を18時半まで延長すれば良いのではという意見も出ると思うが、保育所については子どもの人数増もあり、職員の人数も多く、時間に対するシフトが組みやすい点がある。ただし、幼稚園は小規模園が多いため、園長、担任などの職員数が少なく、職員の配置には限界がある。11時間ずっと同じ担任が教育・保育を行うことは、労働時間の問題もあり難しい。</p> <p>新たに人を雇えば良いのではという話だが、なかなか幼稚園教諭などの資格を持つ人がおらず、預かり保育の職員確保も難しい状況であり、30分であっても時間を延ばすのは非常に難しい状況である。今後はできる限り、保育所と幼稚園で同じような教育・保育ができるよう、この委員会でも検討いただきたい。</p>
委員長	現状報告や既存計画については、施設の配置などのハード面が重視されていると感じた。三豊の子どもたちにとってどういった保育が望ましいのかといったソフト面について、どこまで細かい内容を計画に盛り込むのか？

事務局	<p>行政側としては、制度や体制面に注目しがちになってしまう。委員の皆様には専門的な立場から、ソフト面でのご意見等を積極的にいただき、そのような教育・保育を行うためには、どういう体制が必要なのかという形にしていきたい。</p> <p>これまでの就学前教育・保育推進研修事業においても、大前提として「子どものここを伸ばしていく必要がある」とか、「今後はもっとこういった保育が必要である」といった、保育指針等書かれている年齢ごとの子どものあるべき姿などの目標を定めている。そこに向かうためには、こういう体制作りが必要ではないかというふうに、自由に委員の皆様からご意見をいただき、それを取りまとめて、市の政策にどのように反映していくのかが重要になると考えている。</p>
委員長	<p>保護者や現場の先生方としては、施設のことは提案しにくいと思う。現場で感じるような、子どもに関することの方が話しやすいと思うので、もっと幅広く意見を出しても良いということではよろしいか？</p>
事務局	<p>かまわない。</p>
B 委員	<p>近年の悲惨な事件の加害者の中には、家庭的に問題がある人も多いことが分かっている。現在でも、問題を抱えている家庭で過ごさざるをえない子どもがたくさんいる。その子どもたちが大きくなったら、悲しい事件がもっと多い世の中になってしまうのではないかと危惧している。</p> <p>行政がなかなか家庭まで踏み込むことができないという状況の中で、我々ができることと言えば、子どもたちの強い心を保育所等で育てられるような教育・保育や、食育が必要であると感じている。</p> <p>食育で言えば、仁尾小学校での素晴らしい取り組みの成果が出て、公立保育所での食育活動も始まり、その後もがんばっている。しかし、民設民営の保育施設が増えたことで、三豊市の食育方針等がなければ、三豊市の特色ある食育が薄れているのではないかと感じている。この検討委員会で、そういった指針に繋がるものができれば良いなと考えている。</p>
D 委員	<p>高瀬南部保育所は、建替前は3歳児までの受け入れであったため、これまで0歳児～3歳児は保育所へ行き、その後は幼稚園へ行き、小学校へ上がるという流れができていた。しかし、建替えに伴い0歳児～5歳児が利用できるようになった。</p> <p>幼稚園に行くとなると14時に迎えに行くのは難しく、預かり保育を利用したとしても、かなりの少人数になってしまう。幼稚園と違い、保育所であれば14時以降もある程度の集団生活を過ごせる体制となっている。</p> <p>幼稚園の子どもがかなり減っており、それなら保育所へ残ろうという考えが保護者にあるのかなと感じている。高瀬南部保育所を0歳児～5歳児が利用できるように変更した理由をお聞きしたい。</p>

委員長	<p>就学前教育・保育の体制も全国的にいろいろな地域があり、もともと三豊市も、保育所から幼稚園へ行って、小学校へ行くという文化があったと思う。ただし、それでは対応できなくなったため、0歳児～5歳児対象の保育所にしたということか？</p>
事務局	<p>現場の声として、0歳児～3歳児対象の保育所よりも、0歳児～5歳児の一貫した保育を提供する保育所のほうが良いという意見もあった。0歳児があって1歳児、1歳児があって2歳児、というふうに積み上げで保育を行っている。</p> <p>また、近年は就労家庭が多いため、土曜日の全日保育、休日保育、延長保育といった多様な保育ニーズに応えられる保育施設が良いのではとの考えもあり、年齢制限を撤廃し、0歳児～5歳児対象の保育所とした。</p>
委員長	<p>以前なら幼稚園は教育、保育所は保育という意識も強かったが、今は幼稚園と保育所を一体として考えていくという流れもある。</p>
E 委員	<p>山本地区のことをもう少し詳しく聞きたい。3歳児～5歳児対象の幼稚園型認定こども園と、0歳児～2歳児対象の保育所を整備するとの説明があったが、運営母体はどうなるのか？</p>
事務局	<p>山本地区で整備する幼稚園型認定こども園は、あくまで文部科学省所管の幼稚園であり、幼稚園は市町村や学校法人等でないと運営できない。山本地区の場合は、市が運営を行う。子ども・子育て会議において、就学前の施設整備を行う場合は、「地域の同じ年齢の子どもが同じ場所で育つ環境整備が必要である」との意見もあり、できる限りその形になるよう施設整備を進めている。幼稚園と保育所で建物は別になるが、同じエリアで育つ環境を整える。</p> <p>保育所の運営母体という点については、今後の方針は決まっておらず、当面は市が運営する予定である。</p>
E 委員	<p>県内でも認定こども園化が進んでいるが、保育所や幼稚園などの形態を問わず、同じ目線で0歳～5歳までの子どもに教育・保育ができるよう県内でも取り組んでいるところである。今の話を聞くと、0歳児～5歳児を大括りで一つにして、その中で0歳児～2歳児、3歳児～5歳児と分けたほうが良いのではと感じる。</p> <p>それは何故かと言うと、職員の気持ちである。幼稚園から保育所、保育所から幼稚園と、それぞれ外から見るとお互いの良いところ、悪いところがよく分かる。別の施設、組織になってしまうと、職員の働く気持ちがどうなるのか不安である。施設で働く保育士の想いは、保育に関わってくる。この施設で保育をしてよかったと思えるような体制作りをお願いしたい。</p>

(3) その他	
委員長	<p>議事(3)は「その他」となっております。せっかくの機会ですので、委員の皆様それぞれの立場から、こうなったらいいなというような希望など、自由なご意見等をお願いしたいと思います。</p>
A 委員	<p>地域で農業に関する環境保全を行っており、幼稚園、小学校の田んぼ体験や野菜栽培などにも関わっている。幼稚園、小学校は、地域の協力があって初めて地域教育ができていますと実感している。保育所は対象地域が広く、地域協力がどこまでできているのか分からない部分もある。</p> <p>学校区で学校教育としての位置付けもある幼稚園のほうが地域協力できており、その部分が良いところではないかと思っている。</p>
F 委員	<p>保育所、幼稚園と地域の関わりの話だが、私の子どもが利用している保育所は、小規模の保育所ということもあり、地域との関わりがとても多い。自然面でも山あり海ありで、その中ですくすく育っていると感じている。子どもを幼稚園へ入れるか保育所へ入れるか悩んだが、その地域で育てたい、その保育所で育てたいという想いでその保育所を選んだ。</p> <p>幼稚園、保育所という形態ではなく、子どもが育つ環境であれば、どちらでも良いというのが個人的な意見である。小学校、中学校は多くの人数での競い合いという部分もあるが、保育所の場合は、少人数で手厚く、先生の目が行き届きやすい方が良いのかなと感じる。先ほど幼稚園統合の話もあったが、市の財政面もあると思うが、大規模化しない方が良いのではと思っている。</p>
委員長	<p>就学前の教育・保育では「本物体験」というものを大事にしている。施設の規模に関わらず、地域の中で子どもが育つという点が重要である。</p>
G 委員	<p>ソフト面をどこまでするのかという点だが、やはり、就学前教育・保育検討委員会というからには、ソフトの部分が必要だと思う。子どもにとっては、施設の形態は関係なく、保育所であろうが、幼稚園であろうが、認定こども園であろうが、それぞれで共通意識を持ち、三豊市としての方向性を定めていくことがこの検討委員会の意義だと思う。食育に関して、公立・民間を問わず、全体の共通意識を持っておきたい。</p> <p>まずはソフト面が重要であり、そこが定まってから、地域によってハード面を考えていくのが良いのかなと思う。</p>
H 委員	<p>先ほど既存計画の概要の中で、幼稚園の適正規模・適正配置の考え方の説明があり、幼稚園は小学校区ごとが望ましいとのことであったが、山本地区の幼稚園の統合はどのような位置付けか？</p>

事務局	<p>幼稚園の適正配置のこれまでの方針は、小学校区へ合わせるといものである。小学校の統廃合の方針としては、1学年20人を切る場合には統合を検討するというので、その方針に基づき、まず山本地区では小学校を統合した。幼稚園の通園区域は小学校区と同じが望ましいということで、幼稚園を小学校区に早く合わせるように統合を進めている。既存計画では、幼稚園の通園区域は小学校へ合わせるとい方針であるが、果たしてこれでいいのかというところも含めて、今回の検討委員会で検討したいと考えている。</p> <p>また、統合による大規模化の話もあったが、現状では豊中幼稚園が大規模園となっており、昨年度末時点で270人～280人の子どもが入園している。統合してそこまで大規模化していいのかという点は、十分に検討する必要がある。</p> <p>山本地区の場合は、現状では3学年で最大150人の想定で、適正規模の方針である80人～120人と比較すると少し多くなるが、これから子どもの数が少し減り、数年で120人台程度まで減少することが見込まれており、これまでの方針にある程度は合致しているのではないかと考えている。</p>
I 委員	<p>子育て広場や利用者支援事業を運営している。秋頃から入園、入所の申し込みの相談が増えてくる。保護者にとっては、幼稚園と保育所の違いが分からない方も多く、施設の見学なども保護者一人ではなかなか行きづらいという声が多い。</p> <p>最近では、保護者から「子どもに何かしてください」という声も多く、子どもが育つ上で親も育つ必要があると感じるので、一緒に親育ちしましょうという観点から、声掛けなどの取り組みを行っている。そういった現状もあるので、家庭保育者への支援なども検討していただきたい。</p>
委員長	<p>就学前教育・保育という観点には、家庭での教育・保育も含まれており、その点も検討する必要があると感じる。</p>
副委員長	<p>高松市内の子育て広場におり、保護者の声を日々聞いている。現在では、家庭保育をした後に幼稚園のみを利用し、小学校へ行くという子どもは激減している。やはり、0歳児～1歳児の時点で広場などを利用し、育休明けに保育所へ入る子どもが増えている。家庭で過ごす時間が減っている中で、子育ての仕方が分からない、子どもの行動がよく分からないという保護者も多くなっている。</p> <p>幼稚園、保育所といった制度は関係なく、三豊市内であれば、どこの施設へ行っても受け止めてもらえるような、同じ教育・保育が受けられるような体制ができれば良いなと感じている。</p>
委員長	<p>ハード面の検討ももちろん重要であるが、ソフト面を含めて今後の検討を進めていきたいと感じている。子どもを中心に据えた声を吸い上げられたら、良い方向性が出せるのかなと思う。</p> <p>委員の皆様全員の発言をいただきましたので、本日の審議は以上で終わりたい</p>

	<p>と思います。次回以降に、さらに深く議論していきたいと思います。</p> <p>ここで、本日の進行の任は終了いたします。ありがとうございました。</p>
7. その他	
事務局	<p><事務連絡></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この委員会の中では時間も限られていることもあり、いつでもかまわないので、事務局までご質問、ご意見等をいただきたい。 ・今回の委員会は公開して行う。会議の結果についても、概要を市HPで公開する。委員の皆様の発言は匿名とし、要約して掲載する。
滝口部長	<p><あいさつ></p> <p>事務局としては、現場の幼稚園や保育所へ行くこともあるが、なかなか生の声を聴くことが難しいこともある。委員の皆様は現場で活躍されている方が多いので、率直な意見や三豊市へのお叱りをどんどんいただきたい。それが今後の子どもたちのためになると考えている。本日は大変ありがとうございました。</p>
閉 会	
事務局	<p>それでは、以上をもちまして、本日の委員会を終了させていただきます。今後も皆様のご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。</p>